



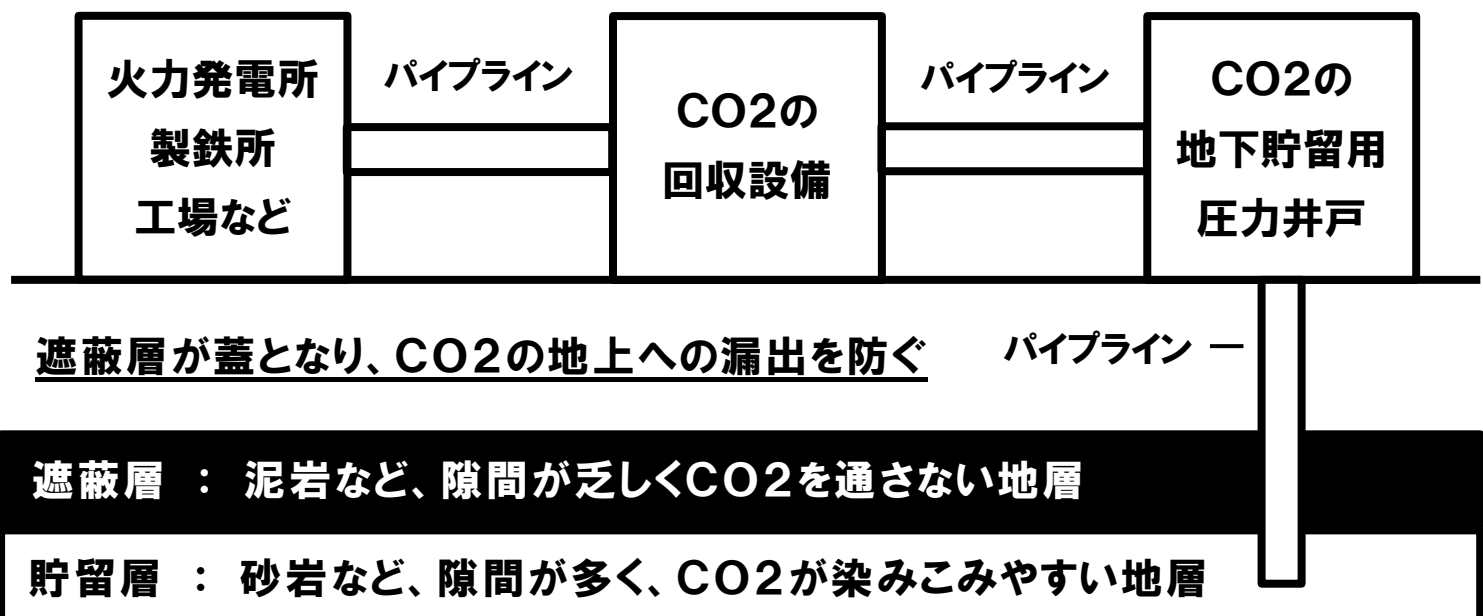
二酸化炭素の回収・地下貯留(CCS)を促進

CCS (Carbon dioxide Capture and Storage) 事業の概要

概要 : CO₂を地下や海底の地層、枯渇油田・ガス田に封入、大気中のCO₂を削減して地球温暖化を抑制する
CO₂の地下貯留場所は、国内・国外問わずに実施
事業コストの削減・低コスト化を推進している

- ① 地層や地震リスクなどを調査した後、井戸やパイプを設置する
- ② 火力発電所や製鉄所、各種工場などで排出されるCO₂を回収し、パイプラインや船舶などを用いて地下貯留用の施設まで輸送する
- ③ CO₂を貯留に適した地層に送り込み、地層の中に染みこませる

CCS事業の具体的な流れ



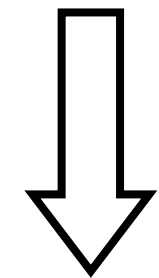
日本の温室効果ガス排出量の削減目標

目標：2050年までにカーボンニュートラル（CN）を実現し、日本の温室効果ガス排出量を実質的にゼロにする

.....

CNとは、温室効果ガスの排出量と同じ量を削減している状態を指す。温室効果ガスの削減方法としては、森林の育成やCCS事業などがある。排出量の抑制、削減量の増加、双方を強力に進めることが重要である。

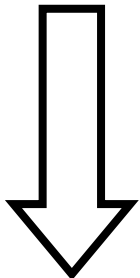
《 CCS事業に関する我が国の長期ロードマップ 》



2030年

2030年までにCCS事業のビジネスモデル確立を図る

- ① 施設建造、コスト低減と安全性向上に資する技術開発を強力に支援
- ② 海外のCCS事業への支援・投資により、CO₂排出量取引を推進
(CCS事業で削減した排出量の一部を、日本の削減量にできる制度)



2050年

日本と世界でCCS事業の本格稼働と技術革新を推進

2050年までにCCSの事業コスト全体を約6割まで低

減

CO₂年間貯留量 1.2 ~ 2.4億トンの達成を目指す

《 『先進的CCS事業』に認定された7つのプロジェクト 》

本年6月、7つのプロジェクトが『先進的CCS事業』に認定された。これらの事業では、北海道や東北、新潟、関東、九州の5ヶ所に加えて、海外2ヶ所にも地下貯留施設を建造し、日本各地で排出されたCO₂をパイプラインや船舶で輸送、地下貯留するプロジェクトとなっている。また、オーストラリアで水素を製造し、川崎で活用する事業が推進中だが、水素製造時に発生するCO₂は、現地のオーストラリアで地下貯留される。